

書牘卷之三（二 往信）

移徙祝儀帖

以^ニ手紙^一致^ニ啓上^一候、先以、
貴家御揃、益御機嫌
能奉^レ賀^者候、昨日は殊^者二天
気も宜敷、新宅へ御
移徙、別而之御都合と^与
目出度存候、就^レ夫、何^か敷
御什器之一品とは^者心懸
候へ共、万^萬端御整ひ之
御中、別ニ工夫も付き
不^レ申、不^レ珍候へ共、玻璃
鏡一面致^ニ進呈^一候間、御
用ゐ被^レ下候ハ、難^レ有存
候、何^れ罷出、万^萬々可^ニ
申述^一候也、

※漢字は全て新字体に直したが、原文が旧字体に近い書体で書かれている場合は、右脇に旧字体を添えた。

※変体仮名は現行の平仮名に直した。なお、字母に当たる漢字を右脇に添えた。

書牘卷之三（二 返信）

御紙面致_二拝見_一候、御

一家被_レ為_レ揃、弥御爽健、

目出度存候、然_者は、今般

新宅へ移徙いたし

候二付、ガラス鏡一面、被_二贈

下_一候段、満足之至_二

候、右は_者必要之品故、宜_二

居間へ相懸け可_レ申と

存候、格別之御心入、千万

難_レ有存候、此段不_二取敢_一、

及_二御礼答_一候也、

※漢字は全て新字体に直したが、原文が旧字体に近い書体で書かれている場合は、右脇に旧字体を添えた。

※変体仮名は現行の平仮名に直した。なお、字母に当たる漢字を右脇に添えた。